勝沼小学校

「自ら考え，進んで表現できる児童の育成」
～算数的活動の充実を図る指導の工夫を通して～

Ⅰ　研究内容

1　研究内容と方法

（1）研究内容

ア　理論研究（算数的活動における「主体的・対話的で深い学び」に関わって）
イ　授業実践および授業公開の実施
ウ　一人一実践の取り組み
エ　児童の実態把握（学習アンケート等）
オ　基礎・基本の定着のための日常的な取り組み
カ　学習規律・学習環境づくりのための日常的な取り組み
キ　甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとの連携

（2）研究方法

ア　全体研究会とブロック研究会を取り入れた研究体制で研究を行う。
イ　講師を招いて，児童の実態にあった理論研究を行う。
ウ　授業研究をし，授業公開を行う。
エ　児童に，研究内容に関わるアンケートを行い，児童の実態や変容について把握する。
オ　ＮＲＴ検査やQ-U調査等から児童の実態を把握し，具体的な指導法を研究する。

2　具体的な取り組み

（1）学び合い活動

ア　問題解決型学習等における学び合い
◇ペア学習・少人数学習から全体へ
→自分の考えを相手に説明する活動

イ　発表時における学び合い
◇小グループでの話し合いから
→グループで意見をまとめる→複数の意見の類似点や相違点に気づく

（2）表現活動

ア　書く活動
◇自分が考えたことを，言葉・図・式などを用いて表現する。
◇各学年で同一規格のノートを使用して，ノート指導に活かす。
◇学習感想を書く。

（3）掲示物・板書の工夫

ア　授業時に「めあて」と「まとめ」を提示する。
イ　板書計画を考え，学習内容の定着を図る。

（4）Q-U調査の結果を分析

ア　全校プロット図の作成
◇第１回の結果を受け，全校児童のプロット位置を確認し，全校プロット図を作成。

イ　各学級ごとのQ-U調査の結果を分析
◇ヘルプサイン・ポジティブチェック，Ｋ－13法（簡易版）を取り入れたQ-U調査の結果の分析を実施。ブロック研究会ごとに検討会を行い，各学級の実態に応じた取り組みを実践。

3　具体的実践

（1）学習会

『「主体的・対話的で深い学び」の視点における授業改善のポイントについて』

講師：山梨県教育庁義務教育課　主幹・指導主事　小池　孝二　先生

（２）実態調査
　５月　算数科に関わる学習アンケート（第１回）
　１２月　算数科に関わる学習アンケート（第２回）
（３）授業実践
　ア　研究授業
　・第３学年　古屋　ゆか教諭　算数科「はしたの大きさの表し方を考えよう」
　　指導助言：義務教育課 主査・指導主事　櫻井順矢先生
　・第４学年　中村　亮二教諭　算数科「広さを調べよう」
　　指導助言：山梨県総合教育センター
　　副主幹・指導主事　雨宮　友成　先生
　イ　授業公開（一人一実践）
　・第１学年　金井　京子教諭　算数科「ひきざん」
　・第２学年　岡　ひさ江教諭　算数科「かけ算」
　・第５学年　渡邊　大智教諭　算数科「四角形と三角形の面積」
　・第６学年　倉田　和美教諭　算数科「順序よく整理して調べよう」
　・たんぽぽ　堀内　友貴教諭　算数科「比例をくわしく調べよう」
　・コスモス　相川　和彦教諭　算数科「計算のしかたをくふうしよう」
　・教務主任　内田　俊彦教諭　理　科「水溶液の性質とはたらき」

Ⅱ　成果と課題

１　成果
（１）理論研究・学習会は，主体的・対話的で深い学びに向かう「問い」を大切にして児童と共に授業をつくっていくこと，数直線や図といった課題解決のツールの有効な活用，教材研究・準備のポイントを学び，研究を深めることができた。
（２）授業における「めあて」と「まとめ」の提示，また「甲州市 Teacher’s Note」を活用した実践について共通理解を図ることにより，同一歩調で学力向上に向けての指導ができた。
（３）各学年で同一規格のノートを使用し，丁寧なノート指導の積み重ねにより，振り返りしやすいノートを取り，学習の定着につなげることができた。
（４）Q-U調査の結果をＫ－１３法を用いて多勢で分析することにより，学力向上や日々の学級経営，また多方面からの個への支援に効率的に生かすことができた。
（５）話し合いの場面や機会といった対話的な活動を有効に取り入れることにより，自分の考えを持つこと，伝えること，友達の考えを受け入れ，自分の考えを深めることが少しずつできるようになった。
（６）研究授業では，授業者が児童の実態や研究の方向性に沿った授業展開を図り，児童のよさや主体的な活動が見られ，日々の実践に役立てることができた。

２　課題
（１）「主体的・対話的で深い学び」の活動をより具現化･焦点化し，具体的活動としてどのような活動が有効であるか，全校体制で取り組み，研究を深める。
（２）一人一実践の取り組みは，手立てや指導法等，教職員の学び合いの場として大変有効な機会となるので，多勢で参観できるように計画を立てて進めていく。
（３）学習アンケートやQ-U，アタックシート１回目の分析や取り組みからの変容をより深く掘り下げ，何がよくて，何が課題であるかを把握し，２回目につなげられるように工夫していく。

Ⅲ　成果物

１ 研究授業及び公開授業の指導案９点
２ 算数科に関わるアンケート結果（２回実施）
３ Q-U調査の結果（２回実施）および全校プロット図

（研究主任　相川　和彦）